



平成 19 年 11 月 16 日

各 位

上場会社名 日 特 建 設 株 式 会 社
代 表 者 名 代表取締役社長 中 森 保
コード番号 1 9 2 9 (東証第 1 部)
問 合 せ 先 執行役員 経営企画室長
和 田 康 夫
(電話番号) 0 3 - 3 5 4 2 - 9 1 6 4

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 19 年 11 月 16 日開催の取締役会において、平成 20 年 3 月期中間期に下記のとおり構造改革に係る特別損失を計上することとしましたのでお知らせいたします。

またそれに伴い、平成 19 年 8 月 27 日に公表致しました平成 20 年 3 月期中間期業績予想（連結・個別）及び平成 20 年 3 月期通期業績予想（連結・個別）について修正いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 特別損失の内容

- (1) 事業構造改革損失 (個別) 4,059 百万円
(連結) 4,259 百万円

当社は、平成 17 年 11 月に収益力の強化と財務体質の改善を企図した「中期経営計画」を策定し、全役職員一丸となって得意分野・高需要分野の事業強化や組織・営業拠点の再編、人的資源の再配置・削減、ノンコア事業の撤退・縮小、ノンコア資産の圧縮による有利子負債の削減を進めてまいりました。

しかしながら、当社の中核事業領域である建設事業におきましては、国・地方自治体が進める構造改革による公共投資の大幅な減少に加え、入札制度改革に伴う混迷度合いも深まっており、当社を取り巻く受注環境は熾烈を極めていく状況であります。

このような厳しい経営環境を背景として、今般、当社は、コア事業への資源の集中と有利子負債の早期削減をさらに加速させるべく、将来のリスク要因となりうるノンコア事業からの完全な撤退を企図した事業の再構築を行うこととしました。具体的には、当社が保有する固定資産及び販売用不動産を早期に売却するため、評価の見直しを実施するとともに、当社グループにおいてノンコア事業であるリース業を事業内容とする当社連結子会社である株式会社ハイテクリースを清算いたします。

このため、当社は、事業構造改革損失を計上することとしました。

事業構造改革損失の主な内容は、連結におきましては、固定資産、販売用不動産を早期に売却するため、固定資産、販売用不動産の評価を見直したことによる損失額 41 億円等であります。

個別におきましては、固定資産、販売用不動産の評価を見直したことによる損失額 35 億円、ハイテクリースの株式評価損、ハイテクリースに対する貸付金の貸倒引当金等子会社清算に伴う損失 5 億円等であります。

資産の早期売却及び連結子会社の清算を実施することにより、有利子負債を圧縮し、財務体質の改善を図るとともに、経営資源を早期にコア事業に振り向け業績の回復を図ります。

売却により損益が確定しましたら、適時開示規則に沿って開示致します。

2.平成20年3月期 連結業績予想の修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

①中間期連結業績予想の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	中間純利益 (百万円)	1株当たり 中間純利益 (円)
前回発表予想(A) (平成19年8月27日公表)	21,200	△ 1,650	△ 1,900	△ 2,750	△ 49.58
今回修正予想(B)	20,500	△ 1,550	△ 1,750	△ 6,700	△ 120.81
増減額(B-A)	△ 700	100	150	△ 3,950	—
増減率(%)	△ 3.3	—	—	—	—
(ご参考) 平成18年9月期	25,281	△ 793	△ 1,063	△ 1,213	△ 21.87

②通期連結業績予想の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想(A) (平成19年8月27日公表)	67,500	1,900	1,160	60	1.08
今回修正予想(B)	67,500	1,600	350	△ 4,800	△ 86.55
増減額(B-A)	0	△ 300	△ 810	△ 4,860	—
増減率(%)	0.00	△ 15.8	△ 69.8	—	—
(ご参考) 平成19年3月期	69,197	1,692	1,175	864	15.59

3.平成20年3月期 個別業績予想修正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

①中間期個別業績予想の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	中間純利益 (百万円)	1株当たり 中間純利益 (円)
前回発表予想(A) (平成19年8月27日公表)	21,000	△ 1,600	△ 1,850	△ 2,700	△ 48.68
今回修正予想(B)	20,000	△ 1,500	△ 1,700	△ 6,250	△ 112.69
増減額(B-A)	△ 1,000	100	150	△ 3,550	—
増減率(%)	△ 4.8	—	—	—	—
(ご参考) 平成18年9月期	24,815	△ 878	△ 1,127	△ 1,277	△ 23.03

②通期個別業績予想の修正

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想(A) (平成19年8月27日公表)	67,000	2,040	1,300	200	3.61
今回修正予想(B)	67,000	1,800	600	△ 4,350	△ 78.43
増減額(B-A)	0	△ 240	△ 700	△ 4,550	—
増減率(%)	0.00	△ 11.76	△ 53.85	—	—
(ご参考) 平成19年3月期	68,230	1,545	1,065	789	14.23

4. 業績予想修正の理由

(個別)

中間期におきましては、売上高につきましては一部下期に完成がずれ込んだ影響で、前回発表より 1,000 百万円減少し、20,000 百万円となる見込みです。営業損益及び経常損益につきましては、経費削減に努めた結果損失額が減少し、営業損失は 1,500 百万円、経常損失は 1,700 百万円となる見込みです。中間純損益につきましては上記特別損失を当中間期で計上したことにより中間純損失は 6,250 百万円となる見込みです。

通期につきましては、売上高は前回予想通りとなる見込みです。営業利益及び、経常利益につきましては、本日公表の「第三者割当による新株式（普通株式、乙種優先株式）の発行、定款の一部変更、社外取締役の招聘、並びに、主要株主である筆頭株主及び親会社の異動に関するお知らせ」の通り、第三者割当に係る新株式発行費用、及び、取引金融機関のシンジケートによるリファイナンス組成費用等を計上することにより、営業利益は 1,800 百万円、経常利益は 600 百万円となる見込みです。当期純損益につきましては、上記特別損失を中間期に計上したことで 4,350 百万円の当期純損失となる見込みです。

(連結)

中間期につきましては、当社個別業績予想の修正に加え、当社連結子会社である株式会社ハイテクリースの不適切な会計処理による調査費用等の発生が見込まれることから、売上高は 20,500 百万円、営業損失 1,550 百万円、経常損失 1,750 百万円、中間純損失 6,700 百万円となる見込みです。

通期につきましては、上記と同様の理由から、売上高は 67,500 百万円、営業利益 1,600 百万円、経常利益 350 百万円、当期純損失 4,800 百万円となる見込みです。

なお、平成 20 年 3 月期に係る配当については、平成 19 年 5 月 29 日公表のとおり、無配の予定であり、変更ありません。

以 上

※上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。